

私の勉強法

林 杏奈

〇はじめに

私は昔から、ずっと座っているということが苦手でした。運動することが大好きで、座っているよりも立っていたい、動いていたいと思う子でした。「勉強はいいや。大好きな体育さえできていれば。」と、思っていた私が、勉強しようと思ったきっかけは、中学2年生の時に、“将来先生になりたい”という夢ができたことでした。

スポーツをする上でも、基礎学力やさまざまな知識が競技力を上げるために必要だということを知ったのは、高校生になってからでした。

長時間いすに座って勉強することが苦手だったそんな私の勉強法を紹介します。

〇私の理解していないところはどこ？

田舎で生まれ、田舎育ったことから、近所には同年代の子より、おじいさんやおばあさんが多く、大人と触れ合うことが多い私でした。なので、中学になっても先生という大人が大好きで、授業では先生の話をよく聞きながらノートをとっていました。「きれいなノートができた！」という自己満足もありました。

授業をよく聞いていれば、だいたいのは理解できる。家に帰ってからは、自分が今日の授業で理解できなかったところはどこかを探すことです。理解しているところはやらない、理解していないところだけ徹底的に勉強する。ということを家庭学習として行っていました。習ったところを全部復習していると、飽きてしまって効率が悪いからです。

〇暗記するところなのか、繰り返し練習するところなのかを判断する

例えば、重要用語や社会の年号、数学の計算問題などです。

暗記物なら単語帳を作ってしまうと、どこかに出かけたときのちょっとした時間に見ながらぶつぶつ言うことができます。これは動きながらでもできるので、座っていることが苦手な私には、うれしい勉強法でした。

計算問題などは、机の上など平らなところでなければできないので、家に居るときに時間を決めて練習問題を解いていました。その日の疲れや、やる気によって時間を決めていました。30分くらいしかできない日もあれば、もっとできる日もありました。

〇文字を書くときは青ペンで

これは友だちから聞いた話です。「青って、暗記するのにいい色なんだよ。リラックスもできるし、集中できる。」この話を聞いてから、私は勉強するときは基本青ペンを使うようになりました。気休めでもいいから、とりあえずやってみる。というのが私の考えです。

〇ずっと丁寧に書くのは疲れるから、殴り書きでもいい

理解できないところや、言うだけでは暗記できないところは何度も紙に書きます。ノートはもったいないから、広告の裏やいらぬ紙に書いていました。10回や20回、頭に入るまで唱えるようにぶつぶつ言いながら何度も書きます。でも、丁寧に書いていると時間がかかるし疲れちゃうから、殴り書きで書いていました。覚えたら、勉強用のノートに丁寧に書いてまとめていました。

これが、私が中学生のころから、今でもやっている勉強法です。